

◆ 今週のコメント

- ・ **アメーバ赤痢**の報告が1例(男性, 60歳代)あります。本年の累積報告数は3例で, 病型はすべて腸管アメーバ症, 推定感染経路は性的接触2例(異性間, 同性間 各1例), 及び経口1例となっており, 推定感染地域は国内が2例, 国外が1例(インドネシア)です。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は, 6.78(271例)となっています。
京都市衛生環境研究所では, 1月以降, 病原体定点からの感染性胃腸炎の検体から11例, 集団感染事例の検体から47例(14事例)のノロウイルスを検出しています。ウイルス型別は, ほとんどがG II型となっています(病原体定点の1検体からG I型)。
また, 医療機関等での集団感染事例の報告も多くなっていますのでご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は, 19.85(1,330例)で, 京都市, 全国ともに先週に比べやや減少しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 7例(肺結核 2例, 肺外結核 2例, 潜在性結核感染者 3例), (喀痰塗抹陽性 なし)】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	19.85	1,330
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.78	271
	② 水痘	0.88	35
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.65	26
	④ 流行性耳下腺炎	0.23	9
	⑤ 伝染性紅斑	0.20	8
	⑤ 突発性発しん	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

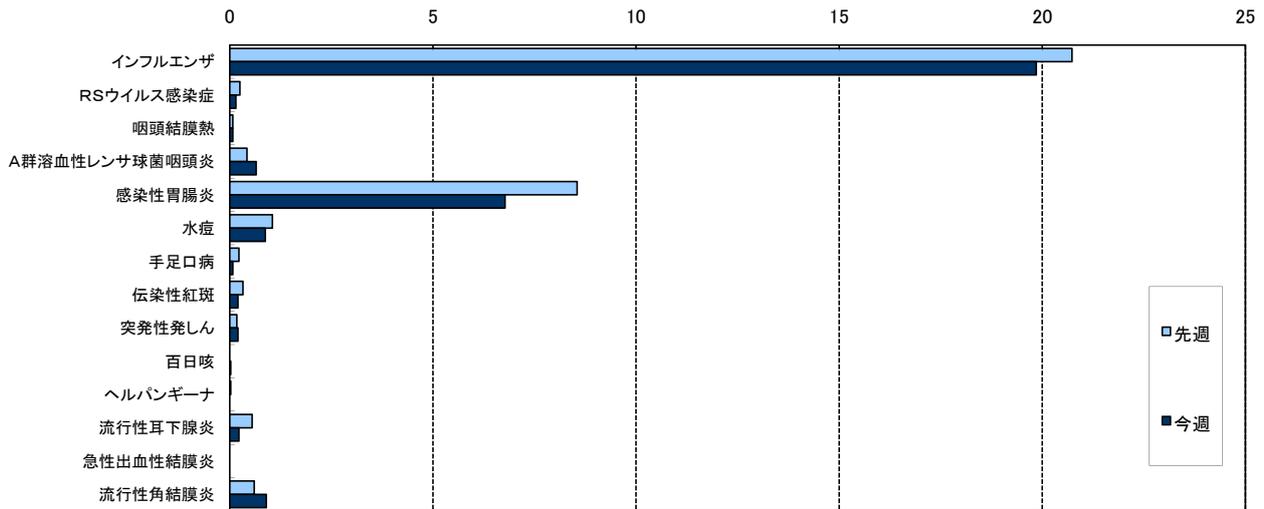
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成23年2月10日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

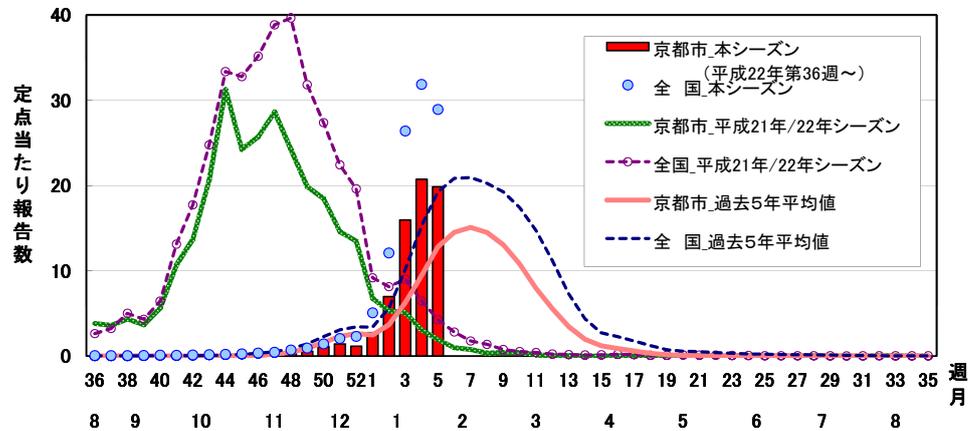
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第5週)と先週(第4週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

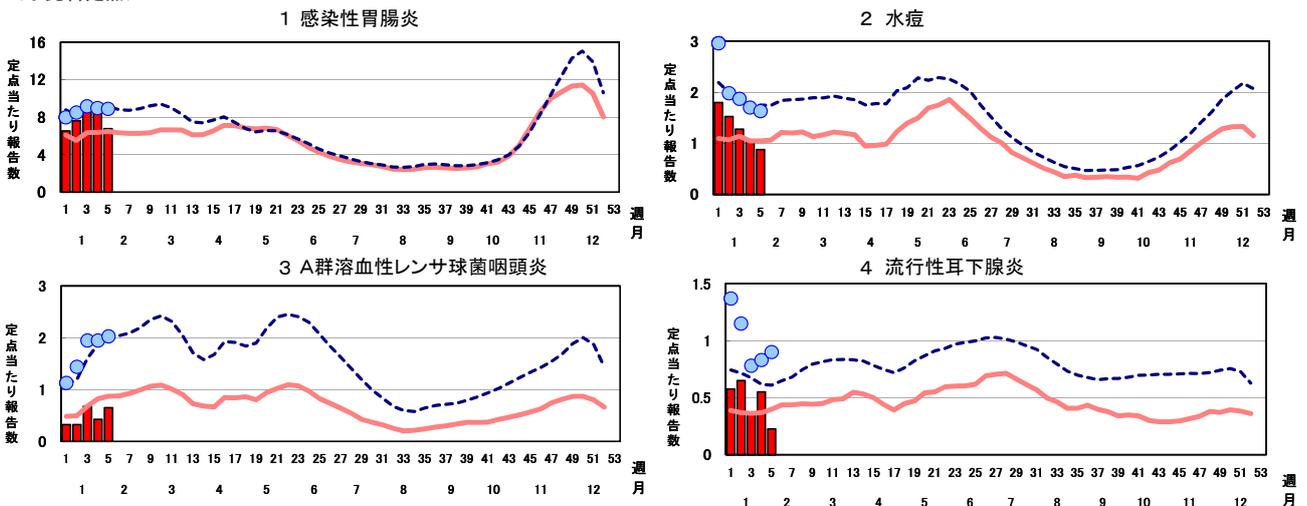
週	報告数(例)
第1週	183
第2週	467
第3週	1,069
第4週	1,389
第5週	1,330
累積報告数 (第36週以降)	4,816



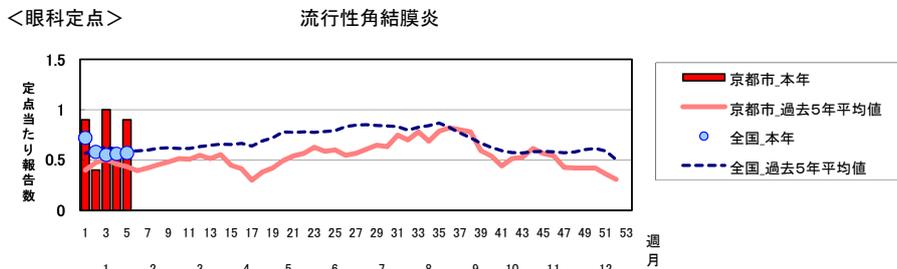
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第5週(1月31日～2月6日)トピックス: <インフルエンザ>

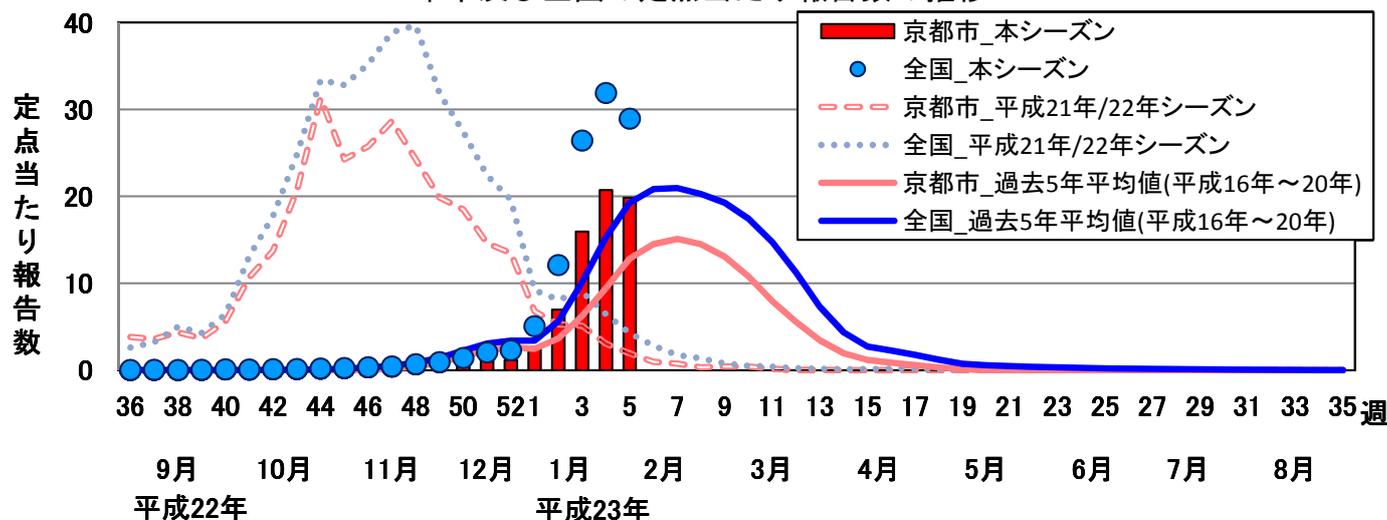
インフルエンザの定点当たり報告数は、19.85(1,330例)で、京都市、全国ともに先週に比べやや減少しています。

行政区別にみると、西京区、山科区、中京区では先週に比べ増加していますが、その他の8行政区では減少しています。近畿6府県では、滋賀県を除く5府県で減少しています。

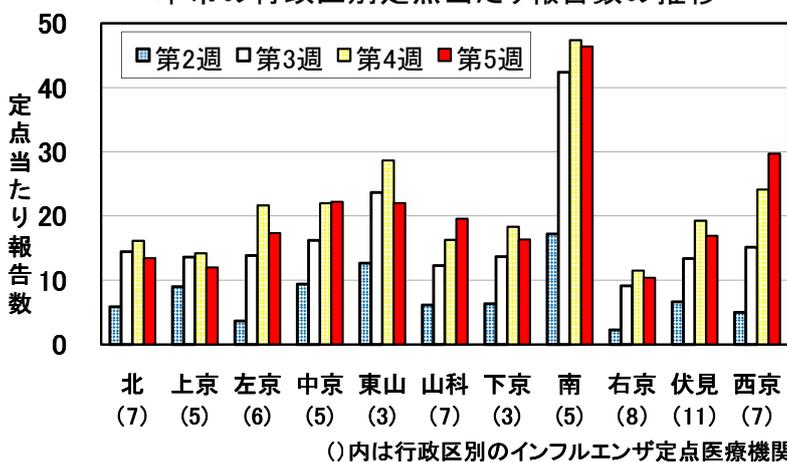
年齢階級別割合では、0～4歳、5～9歳が増加傾向である一方、15～19歳、20～29歳は減少傾向となっています。

京都市衛生環境研究所において、今シーズン(平成22年第36週～)に分離検出したインフルエンザウイルスは、AH1pdm 24例、AH3型 10例、B型 8例で、1月以降では、AH1pdm 24例、AH3型 6例となっています(第5週採取分まで)。

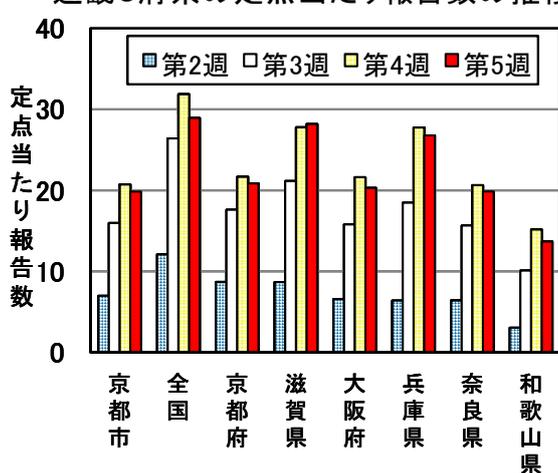
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の行政区別定点当たり報告数の推移



近畿6府県の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移

